

# 滝川市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

滝川市は、北海道中空知地域の中心都市として、さらには周辺市町を含む交通の拠点として機能しており、特に路線バスは滝川市内、周辺市町住民の通勤・通学・通院・買い物等の足として重要な役割を果たしてきた。

こうした状況下において、特に滝川市内線は、市民移動の基幹的な役割を果たすとともに周辺市町と滝川市を結ぶ広域路線に接続する重要な位置づけにある。今後さらに高齢化が進む中で、高齢者など交通弱者にとっての生活利便性を向上させ、広域的な交通接続による地域の活性化の実現、さらには、コンパクトタウン構想の推進を図るため、滝川市内線の確保・維持が必要である。

## 地域公共交通の現況

- JR函館本線・根室本線  
(滝川駅、江部乙駅、東滝川駅)
- 北海道中央バス(株)、空知中央バス(株)  
(都市間バス2路線、近郊路線7路線、市内線2路線)
- タクシー事業者3社  
(三和ハイヤー(株)、ふじ観光(株)、北星三星交通(株))
- スクールバス(6路線)

## 生活交通確保維持改善計画の目標

年間の利用者数161,000人以上とする。

※新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、目標値は現状維持として設定しているが(令和3年度利用者数160,980人)、市広報紙への記事掲載やマスコットキャラクターの活用により利用促進を図る。

## 協議会開催状況

- 令和5年6月23日(令和5年度第1回)  
【主な協議事項】  
生活交通確保維持改善計画
- 令和5年9月28日(令和5年度第2回)  
【主な協議事項】  
市内線の運行方法見直しについて
- 令和5年12月18日(令和5年度第3回)  
【主な協議事項】  
令和5年度事業評価について

## 令和5年度事業概要

滝川市内線(東町先廻)  
起点:滝川駅前  
終点:滝川駅前  
運行日数:361日  
運行回数:3,706.0回

滝川市内線(西町先廻)  
起点:滝川駅前  
終点:滝川駅前  
運行日数:361日  
運行回数:3,230.0回

## 令和5年度事業の実施状況

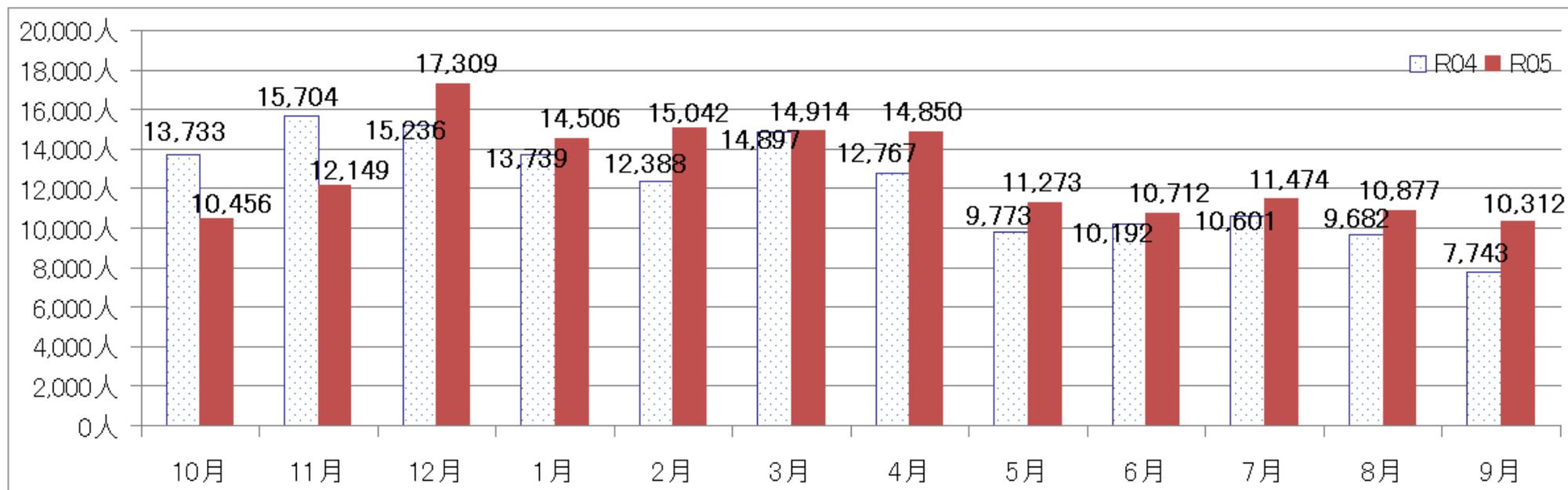
### 1) プロセス、創意工夫

- ・バスの利用促進を図るオリジナルキャラクターを制作し、各種取組みに活用した。
- ・中心商店街等の取扱店で特典やサービスが受けられる「バス乗車トクトクサービスカード」をバス利用者に配布し、利用促進を図った。
- ・市内小学校の児童にバスを身近に感じ、バスへの興味やバスの乗り方を知ってもらうため、路線バス乗車体験など市内バスに関する授業を実施した。
- ・市内バス路線や乗り方を知ってもらうための「滝川市バスマップ」を配布した。
- ・コロナ禍における利用実態に対応した運行便数とするため、R3.12月から減便による効率化を図った。
- ・滝川駅前広場の整備に伴い、滝川駅前への乗り入れを開始した。(H30.4～)

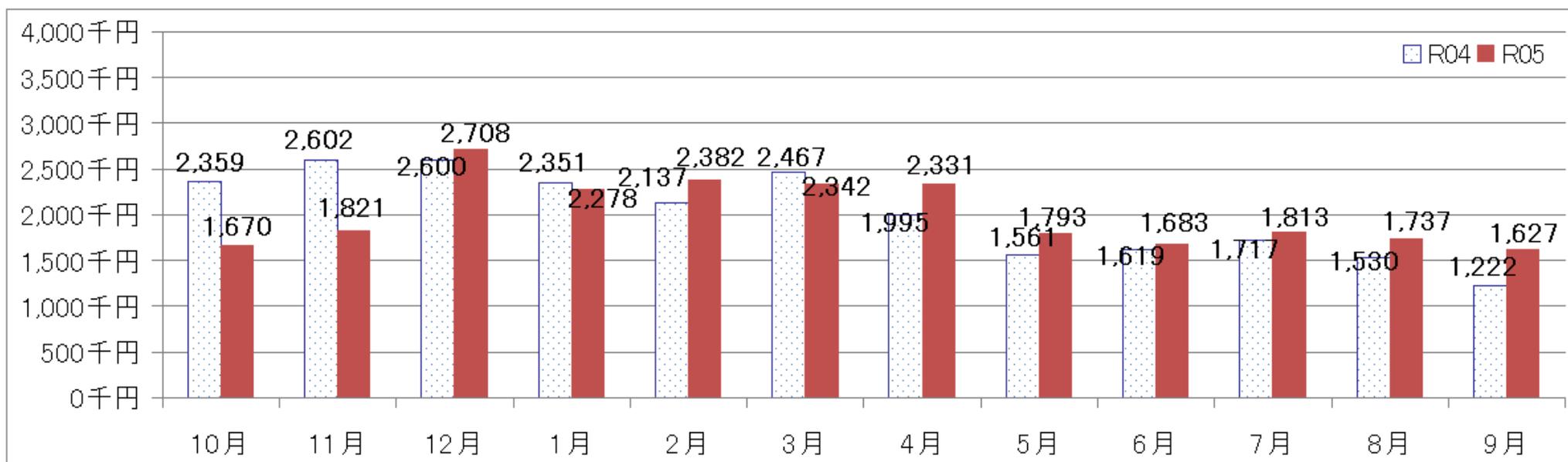
### 2) 運行系統



### 3) 利用実績



### 4) 収入実績



## 5) 事業実施の適切性

コロナ禍による影響は回復しきっていないが、計画通り事業は実施された。

## 7) 事業の今後の改善点

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、人々の行動が増えてきた中、引き続き、持続可能な運行方法についての検討が必要。

## 6) 目標・効果達成状況

### 【目標】

年間の利用者数161,000人以上とする。

※新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、目標値は現状維持として設定しているが(令和3年度利用者数160,980人)、市広報紙への記事掲載やマスコットキャラクターの活用により利用促進を図る。

### 【実績】

年間の利用者数153,874人

### 【達成状況】

コロナ禍の影響により減少した利用が回復傾向(R4 146,455人→R5 153,874人)となったものの、目標には届かなかった。

## 8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・目標を達成することができなかったものの、利用者数は回復傾向にあり、今後も地域公共交通計画に基づき、利用促進策の取組を継続することを期待する。